

—令和2年度サンゴ礁生態系保全行動計画 最終評価会議—

## 環境省による沖縄での サンゴ礁保全の取組

- 1 石西礁湖自然再生協議会における環境省のサンゴ礁保全の取組
- 2 環境省事業実施計画の進捗状況

環境省沖縄奄美自然環境事務所

# 1-1 石西礁湖の自然再生事業

- 自然再生推進法に基づき、過去に損なわれた自然環境を取り戻すため、行政機関、地域住民、NPO、専門家等の地域の多様な主体が参加して、自然環境の保全、再生等を行う
- 地域における自然環境の特性、自然の復元力等を踏まえて、科学的知見に基づいて実施
- 平成18年(2006年)2月  
石西礁湖自然再生協議会設立

個人・団体・有識者・地方公共団体  
・国の機関など**129委員**が参加  
(※令和3年3月現在)

平成19年(2007年)9月

「石西礁湖自然再生全体構想」策定

◆石西礁湖の保全・再生を効果的に行っていくための方向性を定めた



# 1-2 石西礁湖自然再生事業の目標

「自然再生全体構想」 平成19年(2007年)9月策定

## 【長期目標】(30年後)

人と自然との健全な関わりを実現し、1972年の国立公園指定当時の豊かなサンゴ礁の姿を取り戻す。

## 【短期目標】(10年後)

サンゴ礁生態系の回復のきざしが見られるようにする。そのために環境負荷を積極的に軽減する。



1970年頃の  
石西礁湖のサンゴ礁

環境省では、「環境省事業実施計画」  
(平成20年(2008年)6月策定)に基づき、取組を実施

# 1-3 環境省事業実施計画に基づく取組

「環境省事業実施計画」  
平成20年(2008年)6月策定

- ・ モニタリング調査
- ・ サンゴ群集修復事業 (移植)
- ・ オニヒトデ駆除事業
- ・ 評価手法の確立
- ・ 持続的な利用に関する対策
- ・ 意識の向上・広報啓発



モニタリング調査



着床具を使った移植



オニヒトデ駆除

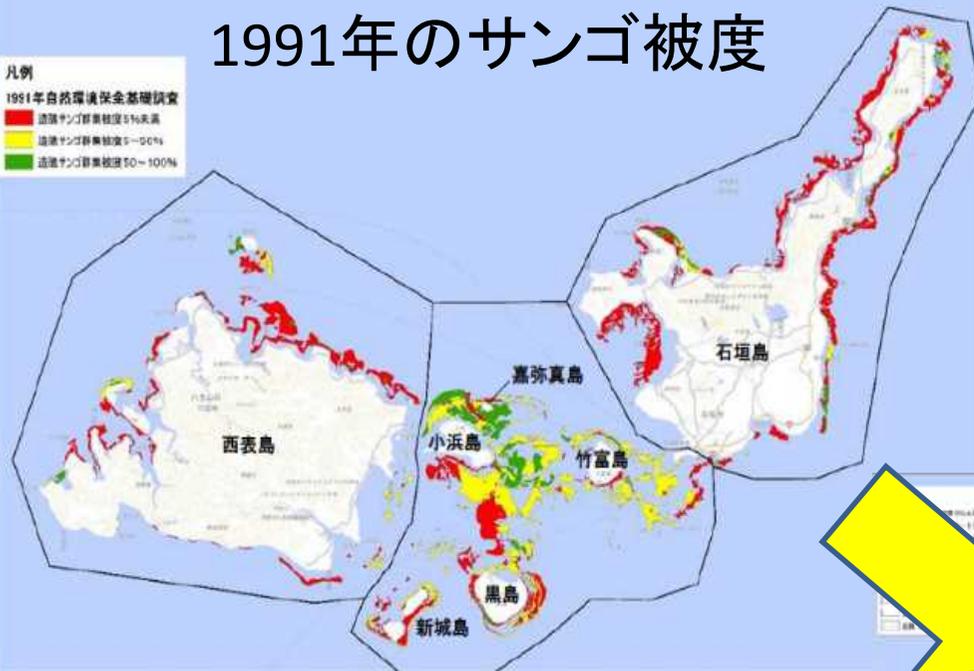


サンゴ学習

# 1-4 石西礁湖の現状

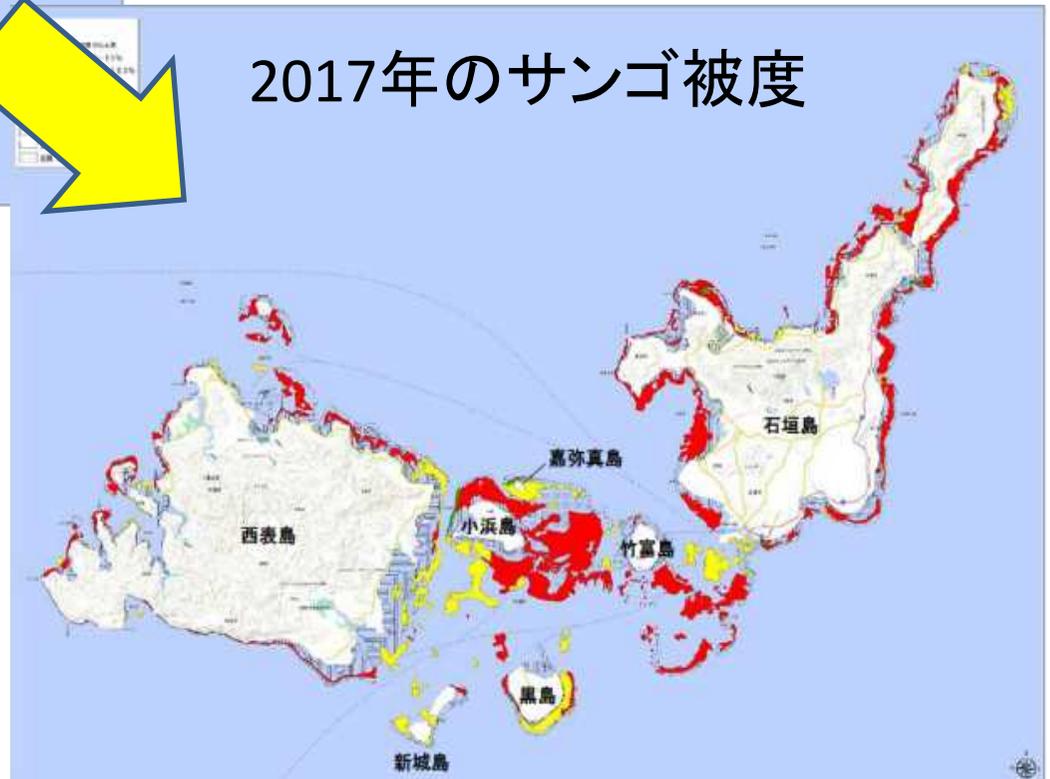
## 1991年のサンゴ被度

凡例  
1991年自然環境保全基礎調査  
赤色 当該サンゴ群集被度5%未満  
黄色 当該サンゴ群集被度5~50%  
緑色 当該サンゴ群集被度50~100%



短期目標である  
「サンゴ礁生態系の回復の  
きざしが見られる状況」  
には至っていない

## 2017年のサンゴ被度



サンゴ被度  
緑色 : 50%以上  
黄色 : 5%~50%  
赤色 : 5%未満

## 2-1 環境省事業実施計画の見直し

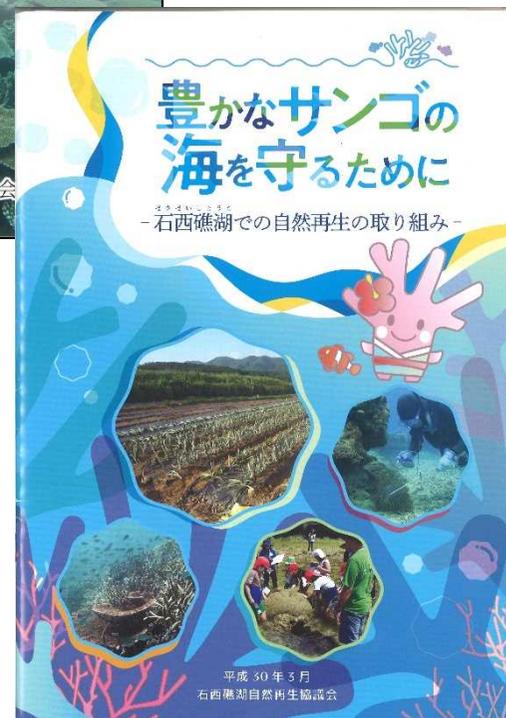
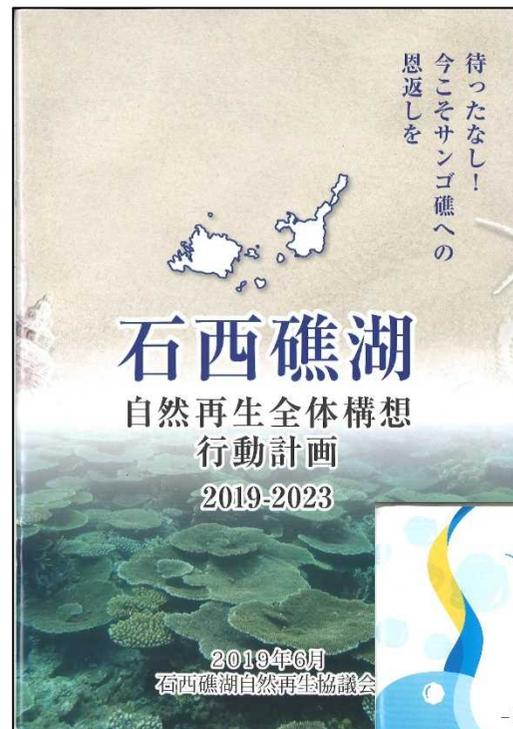
平成29年9月(2017年)  
全体構想策定から10年  
10年間の短期目標を評価



「全体構想行動計画2019-2023」  
令和元年(2019年)6月策定



「環境省事業実施計画」変更  
令和2年(2020年)3月策定



## 2-2 環境省事業実施計画の3つの柱

### 1. モニタリング調査

- サンゴ礁生態系の現状やその変動に加え、サンゴ礁生態系に影響を及ぼす攪乱要因(栄養塩類、化学物質等)、赤土等の堆積等を把握する。
- サンゴ生育に係る環境条件の詳細(水温、流れ、光量等)を把握する。

### 2. 陸域負荷対策との連携

- サンゴ礁モニタリング調査の結果から具体的課題を抽出し、地域住民や関係団体による陸域負荷対策を促進させる。

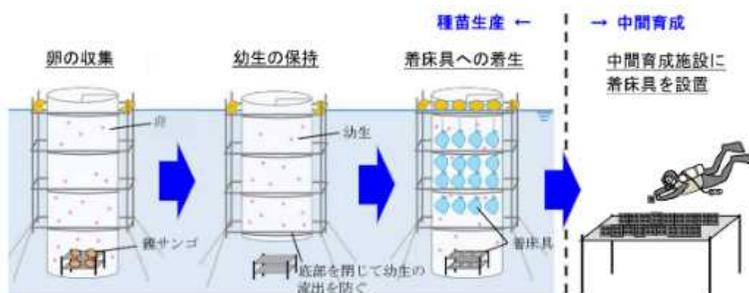
### 3. 新たなサンゴ群集修復事業

- 有性生殖法を用いた修復事業では、限られた数しか移植できず、石西礁湖全体からすると生態系回復の効果は限定的。大規模白化に対応できず。  
→ 大規模な白化現象の発生を前提として、サンゴ群集の回復力を安定させるための幼生の供給拠点を増やす(幼生供給事業)とともに幼生が着床しやすい基盤を整えることを主眼におく。

# 2-3 新たなサンゴ群集修復事業について

## ＜幼生供給事業＞

サンゴ幼生を収集し、着床具に着生させます。その着床具を架台に載せて、海底に配置します。



2021年から2024年にかけて、毎年7000個の着床具を配置していく予定です。



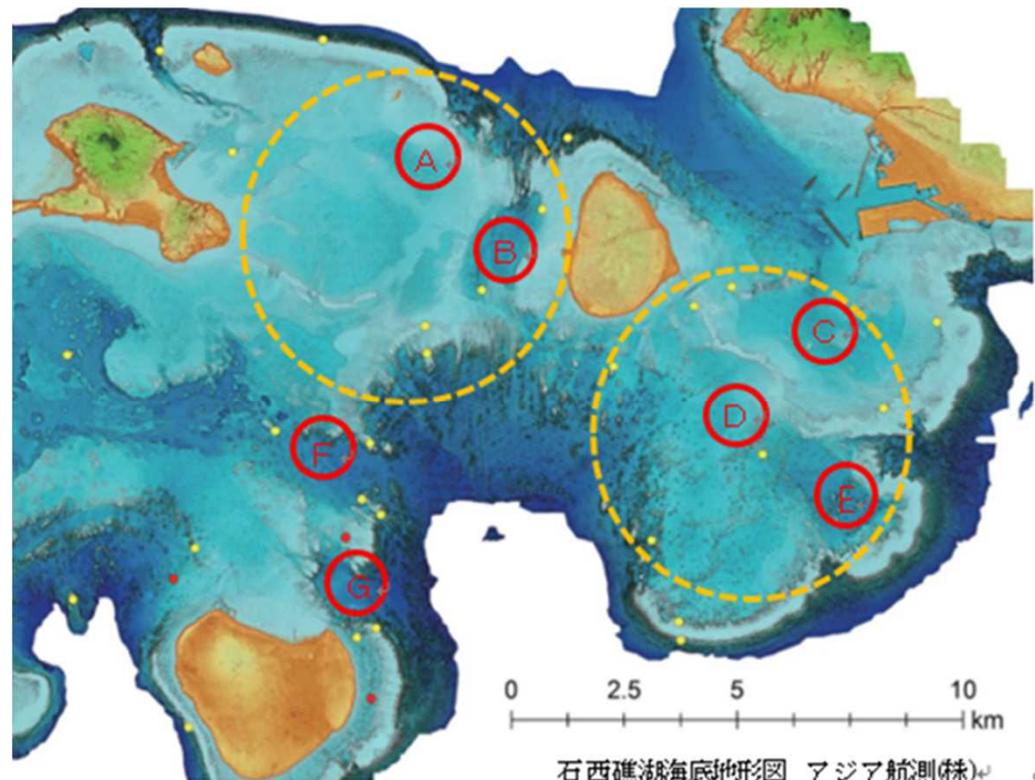
①FRP製グレーナング



②樹脂製ネット

環境の良い7海域（赤丸）に供給拠点を整備し、回復させたい2海域（黄丸）に幼生を供給し続けることを目指します。

着床具のサンゴは、順調に生育すると4～5年程度で産卵できるようになります。



石西礁湖海底地形図 アジア航測(株)